

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

麻布大学

令和5年12月

## 麻布大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・ 獣医学部：獣医学科（中高・理科、農業）、動物応用科学科（中高・理科、農業）
- ・ 生命・環境科学部：臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科（中高・理科）

## 大学としての全体評価

麻布大学では、上記の2学部5学科並びに2研究科3専攻において教職課程の認可を受けている。また、平成31年では、各学科のカリキュラムに教職課程に係るカリキュラムを含める等、全学科のカリキュラム内容を見直し、再課程認定によりその認可を受けている。

ここで、本自己点検・評価報告書の作成においては、本学の各教科に関する科目の担当教員と教職に関する科目を担当する教員を構成員とし、教職に係る内容を協議するための、教職課程委員会が主体となり、教職課程主任を中心に執筆している。また、各学科会議及び各学部教授会において、改めてその目的と内容を確認し、全学的な振り返りを行うことで、円滑に作業を進めることができた。

麻布大学

学長 川上 泰

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	
V	現況基礎データ一覧	

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

(1) 大学名：麻布大学獣医学部、生命・環境科学部

(2) 所在地：神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71

(3) 学生数及び教員数

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

学生数： 教職課程履修者 101 名（一種免許課程）／学部学生総数 2,380 名

教員数： 教職課程担当者（教職科目及び教科科目）73 名／専任教員総数 125 名

### 2 特色

本学の教職課程は、「地球共生系」の理念を踏まえて、生命・環境科学に関する幅広い知識と高度な技能を持つ理科教員と農業教員を養成している。

専任教員 2 名に対して 1 学年 30 名前後の履修生が 4 年間継続して学べる環境にあるので、きめ細やかな履修相談及びキャリア支援が可能である。教職科目の授業では、学科教育で身につけた実験・実習の能力を生かしつつ、小集団による対話や作業を中心としたアクティブ・ラーニングを進めている。また、地域の連携高校の現場教員を招いた授業や、附属高校の若手教員との授業研究、ICT を活用した教育方法の授業などにも取り組んでいる。

近年では、本学大学院への進学を視野に入れた専門性の高い教員の育成にも力を入れ、専修免許状を取得して教職に就く学生が出始めている。また、令和 2 年度から文部科学省補助金事業の「出る杭を引き出す教育プログラム」の一環で、4 年次から大学院に在籍する履修生もおり、今後いっそう専修免許状を取得する学生の増加が期待できる。

1 年に 1 回、本学教職課程を卒業して教職に就いた OB/OG との交流会を行い、履修生のモチベーションを高めるだけでなく、OB/OG 同士が授業力を向上させるためのネットワークづくりも広がりつつある。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状〕

- ① 本学教職課程は、人と動物と環境の共生を目指す「地球共生系」の理念と、それに基づく 2 学部 2 研究科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を参照し、「麻布大学教職課程に関する規程」（資料 1-1-1）に基づいた適正な教職課程教育を推進している。
- ② 「地球共生系のマインドを持つ理科・農業教員の育成」を目指し、「麻布大学教職課程委員会規程」（資料 1-1-2）に基づいた本学の教職課程委員会において、全学組織横断的に、その目的と目標を随時共有している。
- ③ 教職課程教育の概要は、「教職課程履修ガイド」（資料 1-1-3）を通じて履修学生に周知し、教職課程専任教員が「麻布大学教職課程履修カルテ」（資料 1-1-4）を通じて、各履修生の学修成果を把握し、指導・支援している。

##### 〔優れた取組〕

特になし。現在、大学内での教職課程の体制を再整備している途上にあるため。

##### 〔改善の方向性・課題〕

教職課程教育の目的・目標、育成する教員像に関しては、学内の各種規定及び組織との整合性を図りながら、明文化していきたい。

##### <根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 1-1-1：麻布大学教職課程に関する規程
- ・ 資料 1-1-2：麻布大学教職課程委員会規程
- ・ 資料 1-1-3：教職課程履修ガイド
- ・ 資料 1-1-4：麻布大学教職課程履修カルテ

## 基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状〕

- ①平成 31 年（2019 年）に、文部科学省の課程認定を受け（資料 1-2-1）、適切な教育課程編成と教員の配置を行なってきた。研究者教員と実務家教員、本学教務課との間で、安定的な協働体制を構築できている。
- ②本学の教職課程委員会は、教職課程主任の下で、各学科長、研究科専攻主任、各学部の教務委員長、事務職員（教務部）等で組織し（資料 1-2-2）、全学組織の中で責任を持った教職課程教育が運営できるような体制が整っている。
- ③教職課程教育を行う上で、学生が資料を閲覧し模擬授業を練習できる講義室が確保され、電子黒板も導入して ICT 教育に対応できるように整備されている。
- ④教職課程の質的向上のため、全学で実施する授業評価アンケートを活用している。特に、非常勤講師とは、授業の質を維持するために適宜コミュニケーションをとっている。
- ⑤教員養成の状況については、本学ウェブサイトの「教育学習支援」という項目の中で、教員採用の状況を公開している（資料 1-2-3）。

### 〔優れた取組〕

- ・特になし。小規模の大学のため、各学部・学科の教育及び事務職員との連絡調整は円滑にできている。

### 〔改善の方向性・課題〕

- ・教職課程の科目を担当する教員に研修の機会を設定して、教職課程教育への理解を深めたい。

### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-2-1：「教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程認定について」
- ・資料 1-2-2：「麻布大学教職課程委員会規程」
- ・資料 1-2-3：<https://www.azabu-u.ac.jp/carrier/interview.html>

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状〕

- ①教職課程履修の募集は、新入生の全学ガイダンスの中で実施している。例年 30 人前後の学生を確保できている。
- ②履修学生の人数は適正規模なので、教職課程専任教員 2 名が中心となって、4 年間を通して履修上の相談や進路相談等にきめ細やかに対応できている。
- ③近年は、身体的・精神的な悩みを抱える学生が増加していることから、各学科の教員と適宜情報交換しながら、履修上の支援を行なっている。
- ④4 年間、履修カルテを活用しながら、学生の学修状況を把握し指導支援を行なっている（資料 1-1-4）。

#### 〔優れた取組〕

・本学は大学院で専修免許状を取得できるため、1 年次から「大学院進学を見通した教職課程の履修」を推奨し、3 年連続で内部進学者が増加している（資料 2-1-1）。これは、本学教職課程の「高度な能力を持った理科教員の育成」という成果となり、専修免許状取得者の採用試験合格者も出始めている。

・令和 2 年度から文部科学省補助金事業の「出る杭を引き出す教育プログラム」の一環で、4 年次から大学院に在籍する履修生もおり、今後いっそう専修免許状を取得する学生の増加が期待できる。

#### 〔改善の方向性・課題〕

・教職を担う学生を育成するためには、教職課程科目に携わる教員の授業の「質」の向上が重要である。ICT を活用した授業に対応していくことは勿論であるが、早期に教育現場を経験し、教職に関心を持ってもらえるような教育課程教育の部分的な見直しも検討する必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1：教育職員免許状申請者一覧（2019～2020 年度）

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状〕

- ①教職課程履修者 3 年生・4 年生・大学院生を対象に、例年教員採用試験対策講座を実施し、受験予定者の支援を行なっている。(資料 2-2-1)
- ②3 年次にアンケートをとって受験予定者を把握し、教職課程専任教員が 4 年次の教員採用試験まで個別支援を行なっている。
- ③第 1 次試験合格者には、教職課程専任教員が第 2 次試験の対策講座を開講している。
- ④教員採用試験の不合格者には、教職課程専任教員が私立学校の採用情報を適宜広報して、マッチングの支援を行なっている。また、臨時採用教員に就いた OB/OG には、卒業後も必要に応じて採用情報を提供している。

### 〔優れた取組〕

- ・例年 3 月に、教職課程卒業生との交流会を開催し、教職に就いた卒業生と在校生との情報交換の場を設けている(資料 2-2-2)。この場から、卒業生をゲストで招いて授業を充実させたり、卒業生が新たなつながりを得たりと、有意義な場になっている。

### 〔改善の方向性・課題〕

- ・教員志望の学生が減少傾向にあることから、2 年次に公務員試験と教員採用試験のどちらかが選択できる講座を検討している。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1 : [https://www.azabu-u.ac.jp/carrier/adop\\_program.html](https://www.azabu-u.ac.jp/carrier/adop_program.html)
- ・資料 2-2-2 : 教職課程卒業生交流会の概要



### 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 〔現状〕

①教職課程の各科目のシラバスは、本学の理念を教育内容に反映させた上で、すでに平成31年（2019年）度に文部科学省により再課程認定がなされている（資料 1-2-1）。現在は、学生の実態、学術の動向、社会的要請を勘案しつつ、シラバスに微修正を加えながら教職課程カリキュラムの運営を行なっている。

②「教育の方法と技術（ICT活用教育を含む）」という科目を中心に、ICT機器の利用、情報活用能力を育てる教育への対応を行なっている。2022年度は、電子黒板を購入し、授業の中で活用し始めている。

③教職課程の全科目で、科目ごとの差はあるが、アクティブラーニングの取り組みを行なっている。

④麻布大学教職課程に関する規程において、教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し（資料 1-1-1）、学生の履修状況を踏まえて実習の許可を出している。教職課程専任教員は、必ず教員採用試験受験予定者の教育実習を参観し、きめ細かい指導支援を行なっている。実習終了後はアンケートを実施して、実習校での受入体制や担当時間数、ハラスメントの有無を調べて、事後の対応に生かしている。

##### 〔優れた取組〕

・特になし。過去には、非常勤講師の授業の質を問われた時期があったが、現在は安定した教職課程カリキュラムの運営ができています。

##### 〔改善の方向性・課題〕

・学生は、学科の授業（実験・実習等）で非常に多忙な学生生活を送っているが、週に1回でも学校でのボランティア体験ができるような仕組みを検討したい。

・デジタル教科書を活用できる予算と条件を確保したい。

##### <根拠となる資料・データ等>

・資料 1-2-1：「教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程認定について」

・資料 3-1-2：「教育の方法と技術（ICT活用教育を含む）」シラバス

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

#### 〔現状〕

- ①本学の学科教育では、大学内外での実験・実習の機会を数多く設定している。教職科目（理科教科指導法、物理学・地学実験等）の授業では、そこで得た知識や技能を最大限活かせるような工夫をしている。
- ②介護等体験と教育実習では、学生の取組を把握し支援するために、できる範囲で現地を視察し必要な指導を行なっている。
- ③本学大学院（環境保健学研究科）では、進学した履修生のために環境教育学特論という科目を履修することを義務付けており（資料 3-2-1）、学部で身につけた理科教育学の知見を更に発展させる支援を行っている。
- ④教育職概論、特別活動論、教職実践演習の授業では、本学の連携校と相模原市教育委員会の教員及び指導主事を招き、特別授業を実施している（資料 3-2-1）。

#### 〔優れた取組〕

- ・特にない。

#### 〔改善の方向性・課題〕

- ・連携高等学校及び相模原市教育委員会との関係を強化し、教職志望学生のキャリア支援に係る協働取組ができないか検討したい。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1：麻布大学大学院履修ガイド
- ・資料 3-2-2：高大連携の対象校リスト

### Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

本学における教職課程は、学長の統括の下で、教職課程主任が 2 学部 2 研究科の教員、教務課及びキャリア支援課等の事務職員の支援のもとで順調に運営することができている。教職課程に在籍する学生は例年約 30 名で、そのうち約 10%の学生が教職に就いている。専任教員 2 名、非常勤講師 8 名が教職科目を担当し、学生の授業評価は概ね高いと言える。地域の連携高校や附属高校との連携も強化されてきた。

課題は、どうすれば入学段階で教職課程のアピールできるか、1～2 年次の学生をどのように教職志望に転換できるか、授業の ICT 化の教材、環境整備をどのように進めるか、そして教育採用試験合格者をどう増加させるか、といった点が考えられる。

### Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

本報告書は、2 学部及び 2 研究科の教授会で作成の目的と内容、作成のスケジュールについて報告された。その後、教職課程主任が中心に執筆し、報告書の素案を再度 2 学部及び 2 研究科教授会で審議し、承認を得た。最終的に、学長の承認を得て提出される。

令和 5 年 4 月 25 日 第 1 回教職課程委員会において、今後の作成スケジュールについて審議の上、承認した。

令和 5 年 5 月 10 日 環境保健学研究科教授会において、教職課程自己点検・評価報告書の作成について、今後のスケジュールの確認及びその作成に係る執筆依頼がある旨、共有した。……

令和 5 年 5 月 15 日 獣医学科会議において、教職課程自己点検・評価報告書の作成について、今後のスケジュールの確認及びその作成に係る執筆依頼がある旨、共有した。……

令和 5 年 5 月 22 日 動物応用科学科、臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科会議及び獣医学研究科教授会において、教職

課程自己点検・評価報告書の作成について、今後のスケジュールの確認及びその作成に係る執筆依頼がある旨、共有した。……………

令和5年9月12日 第2回教職課程委員会において、本報告書の内容を確認し原案のとおり承認した。……………

令和5年10月9日 獣医学科会議において、本報告書の内容を確認し、審議の結果を了承した。……………

令和5年10月11日 環境保健学研究科教授会において、本報告書の内容を確認し、審議の結果を了承した。……………

令和5年10月16日 動物応用科学科、臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科会議において、本報告書の内容を確認し、審議の結果を了承した。……………

令和5年10月22日 獣医学研究科教授会において、本報告書の内容を確認し、審議の結果を了承した。……………

令和5年11月10日 第3回教職課程委員会において、各学科、各研究科で確認した内容を改めて精査し、本委員会で最終案について審議の上、了承した。……………

令和5年11月15日 令和5年度第7回教育研究会議において、本報告書の最終案について審議の上、了承した。

令和5年12月27日 令和5年度教職課程自己点検・評価報告書について、学長の承認をもって完成版とした。

## V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 麻布獣医学園					
大学・学部名 麻布大学獣医学部、生命・環境科学部					
学科・コース名（必要な場合） ・獣医学科、動物応用科学科、臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					484
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					372
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					19
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					4
⑤ のうち、正規採用者数					2
④のうち、臨時的任用者数					2
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	
教員数	34	21	16	2	